

シンポジウム「これからの日本の学協会のあり方」

日 時:平成19年3月16日(金)13:30～16:30

場 所:日本学術会議6C(1)～(3)会議室(6階)

主 催:日本学術会議科学者委員会 学協会の機能強化方策検討等分科会

1講演「日本化学連合の発足について」

講演者:岩村 秀(日本大学教授・日本学術会議連携会員)

1-1 講演内容

- ・ 化学及び化学技術のフロンティアの変化により、過度の専門化、細分化から総合化への大きな動きがある。
- ・ 今日の学協会体制は、時代の変化に対応できなくなっている。
- ・ このような背景から日本化学連合が発足した。
- ・ 日本化学連合創設準備委員会には、22 学協会が参加している。会員数は 13 万人程度である。
- ・ 日本化学会は、19 世紀の終りに、化学会が 25 名で発足した。その後、戦後に工業化学会と日本化学会が合併した。これらの学会は化学産業の発展に寄与した。
- ・ このような統合化とは逆に、分野の細分化により学会の新設も進む。現在、全 70-80 程度の化学関連の学協会があり、延べ 13 万人程度が会員となっている。
- ・ 化学関連の研究者は、通常 3～5 程度の学協会に重複して所属している。
- ・ 日本化学連合では、将来構想に関して、現在化学及び化学技術の将来像策定や、政府の科学政策(科学技術基本計画、元素戦略など)に対する意見集約と提言のとりまとめ(化学における Big Science)などを検討している。
- ・ また、参加学協会連携強化策の検討や、参加学協会化学電子ジャーナルのパッケージ化の検討なども行われる予定である。

1-2 質疑応答

- ・ Q:化学連合の事務局の規模はどの程度か。
A:現在は、設立の準備委員会を設置している状況である。1 年目は、各学会でスペースを借りるか、日本化学会に間借りするかである。
- ・ Q:活動内容はどのようなものか。
A:共通の事業を展開しながら、学協会の再編を伴う日本化学連合の第 2 ステージへの展開の議論も行う予定である。

以上